

## ● レイアウト変更の主なポイント

変更後



外部会議用スペース。一部をパーティションで区切り独立化した。また、机を組み合わせることで、様々な内容の打ち合せに対応可能とした。

変更後

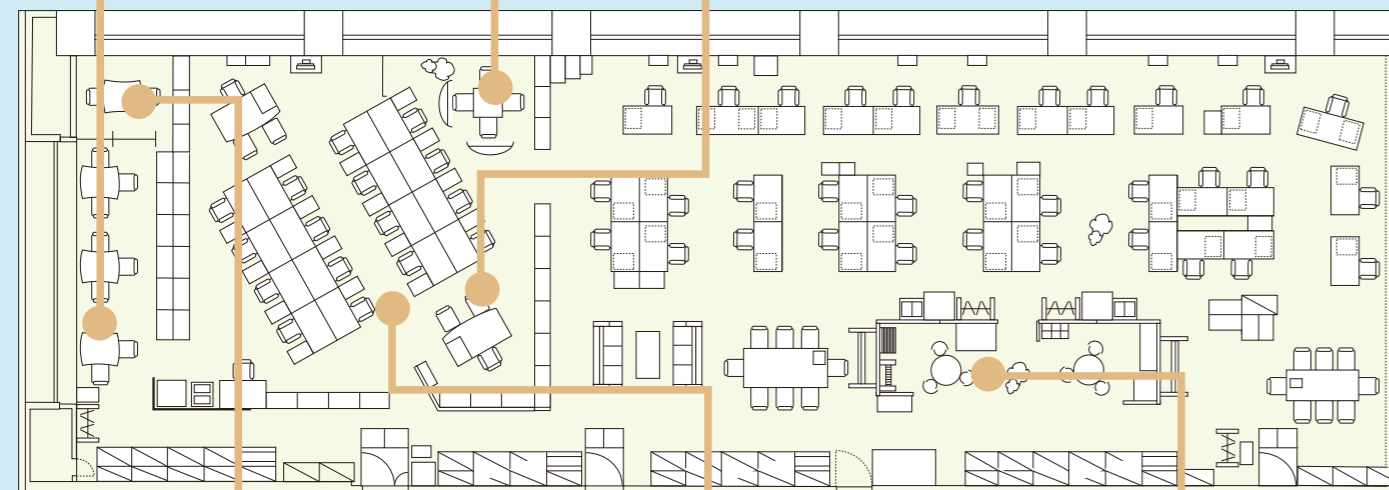


管理職席を窓際から入口側に配置換え。それによって窓際に新たなスペースの新設を実現した。

変更後



管理職席の跡に新たに新設した内部会議用スペース。観葉植物を設置し癒しの空間になっている。



変更後



外部会議用スペース奥に設置した個人集中用の作業スペース。

変更後



狭かった個人席周りを書類の廃棄、整理によって、スペースの有効活用が成功。デスクを斜めに配置し、斬新なレイアウトになった。

変更後

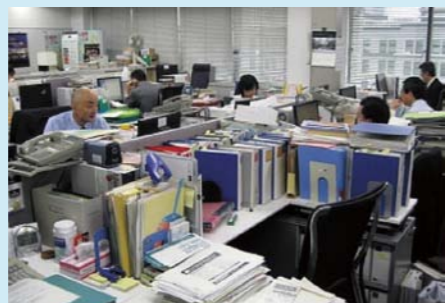


63本の書棚を廃棄することで生まれたエリア。コミュニケーションの活性化だけでなく、新聞ラック、テーブルなどを配置し、リラックス効果も実現している。

変更前



変更前



変更前



「室長がクリエイティブオフィスの実行に前向きでしたのでレイアウト案にもすぐに賛同してくれました。ただし、訪問者が直接室長に声をかけて業務を妨げないように、室長席の一部をパーティションで囲むなどの工夫をしています」(小保方氏)

もう一つ、開放的な空間を演出しているのが、窓際に並べられた打ち合せ用のテーブルだ。

「窓際を共有スペースにする試みは3年前から行っていますが、その時は周囲からどのような打ち合せをしているかを見えるようにしました。今回は奥の1卓だけはパーティションで仕切り、フリーディスカッションだけでなく機微な内容を含む打ち合せも気兼ねなくできるようにするなど多様な目的に応じられるスペースにしたのです」(内野氏)

奥のスペースは打ち合せ以外に集中作業にも利用されており、多様な働き方に対応できるオフィススタイルを具現化している。

### ■書類を整理するだけで余剰スペースは生まれる せっかくなら働き方を変える新しいコーナーへ

リニューアルの目玉ともなっているのが、フロアの中央部分に新たに設置されたコミュニケーションコーナーだ。

「以前、このスペースには書棚が並んでいました。オフィスのリニューアルにあたり、書類の整理と電子化を強力に推進したことで大量の書類が不要になり、新たに利用できるスペースを生むのに成功したのです」(内野氏)

廃棄した書棚は63本に及ぶ。

「規定上、保存の必要がある書類については他に保管庫がありますから、オフィスにこれだけの書棚を置いておく必要はなかったのです。おそらく、どこの職場でも、こういった工夫の余地のあるスペースはあるはずで、それを有効利用するのは、オフィス改革の第一歩だと思いますね」(小保方氏)

そして、コミュニケーションエリアの雰囲気づくりにも気を使った。「複数の課や室で共有するスペースは初めてだったため、新しいコーナーであることを印象づけるためにここだけカーペットの色を変え、家具も斬新なイメージを与えるデザインのものにしました」(内野氏)

また、マグネット効果を生むアイテムも配置している。「給茶スペースやカラープリンターなどの共有物をまとめて配置することで、自然と人が集まるように工夫をし、各課や室の関係するイベントなどのパンフレットを並べて、情報交換ができるようにしました」(内野氏)

コミュニケーションエリア設置の効果は予想以上に大きく、職員がお互いの仕事内容に関心を持つようになったという。

「限られた予算の中でオフィスづくりをするのは大変ですが、アイデアや工夫によって十分な成果はあげられます。私たちの取り組みを広く知っていただけることで、クリエイティブ・オフィスの重要性を多くの官公庁や企業にアピールしていければいいですね」(小保方氏)

### ■リニューアルで大幅に改善された執務環境満足度 コミュニケーション生むオフィスは組織を変える

最後に、レイアウト変更前後に各課室の職員を対象に行ったアンケート調査の結果から、今回のオフィスリニューアル・プロジェクトの成果をまとめておこう。

まず、執務環境については、以前は「不満+やや不満」が68.4%と、大半の職員が満足していなかったが、リニューアル後は「満足+やや満足」



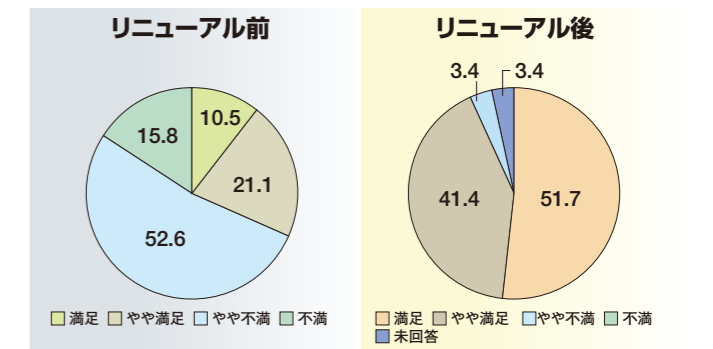
が93.1%と、完全に逆転している。

次に、コミュニケーションコーナー設置の効果を示す「他課室とのコミュニケーション 会話の頻度」については、以前は「少ない+やや少ない」が94.7%と、交流はほとんどないに等しい状況だったが、リニューアル後は20.7%が「やや多い」と答えるまでになっており、働き方は確実に変化してきたようだ。

「執務環境への評価が大幅に改善したのは、書棚や積まれた書類などによる“壁”がなくなり、フロア全体を見通せる明るいオフィスになったからだと思います。これだけでもイメージはまったく変わり、他の課や室の職員から羨ましがられますね」(内野氏)

「コミュニケーションの活性化はオフィスだけで実現できるものではないと思っています。ただ今回のリニューアルが幅広い交流のきっかけになったのはたしかで、これをスタートにもっと色々な取り組みを考えていきたいですね」(小保方氏)

#### アンケート1 執務環境満足度



#### アンケート2 他課室とのコミュニケーション 会話の頻度

